

3. 女性部の組織と運営

えりも漁協には、私たち様似町冬島地区の他に、隣町のえりも町4地区に女性部があり、合わせて5地区の女性部がそれぞれ活動を行っている。また、各女性部を連携する組織として、えりも漁協女性部連絡協議会が結成されており、5地区の女性部が合同で活動する機会もある。

冬島女性部は部員94人で、えりも漁協で活動する5地区の女性部で最も多く、年齢構成は20代から80代までと幅広いのが特徴である。

主な取り組みは、連絡協議会としての行事も含めると、料理教室、植樹、漁港清掃、視察研修や様似町、えりも町の各種イベント参加など、年間を通して様々な活動を行っている。(図3)



図3 冬島女性部による海浜清掃の様子

4. 実践活動取組課題選定の動機

(1) 冬島昆布の存在について

日高昆布という名称は有名だが、昆布の種類はみついしこんぶである。よって日高昆布とは、日高地方沿岸で採れるみついしこんぶのことを指すが、その中でも特に冬島地区の浜で育った昆布を冬島昆布と呼んでおり、私たちにとって大切な存在である。また、漁協合併前の冬島漁協の頃から、事務所の壁には大きく「冬島昆布」の文字がデザインされており、地域のシンボルのような存在でもある。(図4)

冬島昆布は繊維質が比較的少なく、柔らかくなりやすいため、ダシをとるだけではなく、昆布巻、佃煮などで食べても美味しいのが特徴である。私たち女性部では、この地域の宝である冬島昆布を、地域の枠を越えて、たくさんの人に知ってもらいたい、食べてもらいたいとの思いを持っている。



図4 現在の冬島支所の正面

(2) 女性部活動と冬島昆布PRについて

私たち女性部は、環境保全を目的とした植樹や海浜清掃活動、また魚食普及を目的とした学生対象のお料理教室や、地元イベントでの出店参加等を行っている。この活動を通して冬島昆布の魅力を広めることはできないかと考えた。私たちの生活を支えてくれている存在である昆布の魅力を多くの人に知ってもらい、そして食べて貰うことが、地域への恩返しにもなると思うようになった。

地元イベントは、私たちが住む様似町のうに祭り、地場産フェス、昆布フォーラム等があり、それらのイベントには様々な地域から多くの人が集まるため、地元以外へも広くPRできる場になる。そのため、女性部でイベントに参加する際、そこで昆布製品や女性部が作る冬島昆布を使ったお菓子等を販売できれば、女性部活動と冬島昆布のPR活動が両立できるため、とてもやりがいのある挑戦になると考えた。

(図5)



図5 イベント出店時の様子

5. 実践活動状況及び成果

(1) 「昆布だし」によるPR

女性部として何か冬島昆布をPRしたいと思っていた折、地元の昆布加工業者から「是非とも冬島女性部に協力したい」と声をかけてもらい、平成21年から昆布だしという商品を女性部経由で販売させてもらうことになった。その名の通り、手軽に昆布のダシを料理に使用できる調味料だが、味に関してはとてもこだわった。当時の女性部で何度も試飲をして、業者と試行錯誤して納得のいくものを完成させた。(図6)

そうした苦労があってようやく完成した昆布だしであったが、当初のイベント販売では期待していたようには売れなかった。スーパーマーケット等には、大手加工業者が似たような製品を安価で販売しており、その影響もあるのかもしれないが、一番の要因は圧倒的に知名度不足だと思っていた。それだけ私たちは他社製品よりも味は良いと自負していたため、味を知ってもらえたら、絶対に売れるだろうと思っていた。

そこで、私たちは戦略を練り、イベントでの販売時にこの昆布だしを使って茶碗蒸しを作り、まずそれを試食してもらうことにした。その結果、予想通り「とても美味しい」との声が聞こえるようになり、徐々に昆布だしが売れるようになった。また、今では箱買いしてくれる熱心なリピーターの方もいて、素直に嬉しいと感じている。



図6 昆布だし

(2) 昆布を使ったお菓子によるPR

私たち女性部では、昆布だしの販売以外にも、昆布を使ったお菓子を作って販売することにした。その一つに「海の天使」とネーミングしたお菓子がある。「海の天使」は、油で素揚げした昆布にプードルデコールと呼ばれる粉砂糖をまぶした一口サイズのお菓子で、昆布の優しい塩味と粉砂糖の程よい甘味が絶妙なバランスで美味しい自信作である。

「海の天使」開発当初は、素揚げした昆布に普通の砂糖をまぶしていたが、それでは手に取った時に砂糖が溶けてしまい、指がべとついた感じになり、それを何とか改良したいと思っていた。そんな中、シュークリームやガトーショコラなどの洋菓子の仕上げに使用されているフランス製粉砂糖のプードルデコールを使ってみたらどうだろうか。と思い付いて試したところ、理想的な仕上がりとなった。このプードルデコールは湿気に強く、多少の水分を吸っても溶けづらいため、「海の天使」に適していた。

また、商品を包むパッケージについては、当時の日高地区漁協女性部連絡協議会の会長からアドバイスをもらい、天使をイメージした様な柄の小さな透明な袋に、青いリボンをつけることにした。袋に貼るシールについても、子供の天使をイメージしたかわいいデザインとし、ネーミングと商品の見た目がマッチしたものにこだわった。この商品はイベントで販売すると、いつも売り切れてしまう人気商品となっており、これも冬島昆布普及の一助になっているとの実感があつた。(図7-1, 7-2)



図7-1 海の天使(右端)、昆布クッキー、昆布チョコ

また、昆布を入れたシフォンケーキもわずかながら販売して好評を得ている。元々シフォンケーキ作りが趣味で、これに昆布を混ぜてみたら面白いのではないかとの発想から、作ってみることにした。実際に作ってみると、昆布の粘りが出すぎて食感を損ねたり、シフォンケーキがうまく膨らまなかつたりと難しいことがわかった。そこで、使用する昆布の部位を変えたり、湿度によって分量を調整したり試行錯誤し、ようやく一定のクオリティで作ることができるまでになり、初めてイベントで販売した時は、「美味しい」との感想をもらい感激した。大量生産はできないが、年代に関係なく好評であったため、今後も継続して作っていきたい。



図7-2 海の天使パッケージ袋

(3) 様々なイベントへの参加によるPR

コロナ禍の影響で、現在、多くのイベントが開催を見合わせているため参加できていないが、コロナ禍以前は、毎回多くの食のイベントに参加している。イベントでは昆布製品を売るだけではなく、地元のを使用したうに井を販売したり、秋鮭を使用した汁物を無料提供しており、沢山の人を集客できているため、昆布だけではなく、冬島ブランド全体のPRに繋がっていると感じている。(図8)



図8 様子町うに祭りの様子

他にも日高地区漁協女性部連絡協議会で

「浜のかあさん食べもの市」というイベントを開催して、各女性部の製品を販売しており、そこでも私たち冬島女性部は昆布だし、昆布シフォンケーキ（図9）などを販売しているが、いつも完売となる好評を得ていて、これまでの活動の成果を実感できた。



図9 昆布シフォンケーキ

6. 波及効果

こうした私たち女性部の活動によるPR効果は、小規模なものかもしれないが、イベント販売で「前回購入して美味しかったから、また買いに来た」等の声が年々増えていて、とても嬉しく思うし、着実に冬島昆布の良さが広まっていることを実感した。

また、こういった活動は、私たち女性部の結束力を強くする効果もあった。イベントに参加する前の料理作り、お菓子作り等は、「とても忙しいけれど、とても楽しい」と女性部員みんなが口々に話しているのを聞いて、とても良い雰囲気で行っていることを感じ、嬉しく思えた。

7. 今後の課題や計画と問題点

冬島地区には、昆布以外にも美味しい海の食材がたくさんあるため、そういった食材と昆布を合わせたレシピを考えたり、食材としてはあまり利用されていないけれど、調理方法を工夫すれば、輝くような、付加価値をつけることができる食材があるかもしれない。他にもまだまだやれる事は無限にあると思っている。一度に色んなことに取り組むのは大変だけれど、コツコツと小さいことを積み重ねていくことが重要だと考えている。それでも女性部活動は活発になるし、部員同士の絆は強まると信じている。そして今後については、女性部の先人たちがやってきたように、常に新しい挑戦をしながら、充実した女性部活動を実践していくことを目標にしたい。

(3,868字)